

《 Ⅲ 教育の実施体制 》

【 教員組織について 】

(1)現在の専任教員等の人数を下表を例にして作成して下さい。

平成 19 年 5 月 1 日現在の専任教員数は次のとおりである。

専任教員の数

平成 19 年 5 月 1 日現在

学 科 名	専任教員数				設置基準で定める定数		助手	(ハ)	備考
	教 授	准教授	講 師	計	(イ)	(ロ)			
キャリアデザイン学科	10	10	1	21	8	-	0	-	副学長除
保 育 科	5	3	2	10	10	-	0	-	
小 計	15	13	3	31	18	-	0	-	
(ロ)					-	5		-	
合 計	15	13	3	31	18	5	0	-	副学長除

(2)短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書（①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名、④その他）を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

◆「教員の個人調書」 参照

(3)教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

1. 教員の採用

教員の採用を必要とする学科長は、必要な理由、採用候補者の専攻分野、年齢、必要事項を予め学長、副学長に申し出る。学長（理事長兼務）が必要と認めたときは、専任教員資格審査規程に準拠し、人事教授会が資格審査委員会を設置し、同委員会が採用候補者の資格審査を行う。同委員会は審査結果を人事教授会に報告し、人事教授会の議を経て学長（理事長兼務）が決定する。

資格審査委員会は、教員募集要項を定め、本学ウェブサイト等を活用して必要とする教員を公募している。

2. 教員の昇任

教員の昇格審査については、上記の採用と同様な審議を経て決定している。審議は当該教員の講師または准教授での在職年数及び当職在任中の研究業績、自然年齢、教育活動、校務活動等の

総合的な検討を通じて進められている。

- ◆短期大学部専任教員資格審査規程 参照
- ◆短期大学部教員資格審査基準細則 参照
- ◆短期大学部名誉教授称号授与規程 参照
- ◆短期大学部客員教授任用規程 参照

(4)教員の年齢構成について下表を例に現状を記載して下さい。

専任教員の年齢構成表

平成 19 年 5 月 1 日現在

教員数 (人)	年齢ごとの専任教員数(講師以上)							助手等の 平均年齢	備考
	70 以上	60 ～69	50 ～59	40 ～49	30 ～39	29 以下	平均年齢		
31	2	7	10	9	3	0	52.48		副学長除く

(5)専任教員は、(a)授業、(b)研究、(c)学生指導及び(d)その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか、また上記4つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去3ヶ年(平成17年度～19年度の教員の担当コマ数(担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む)、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

1. 業務遂行にみられる一般的な取り組み

教員の業務内容は授業、研究、学生指導、校務、社会活動などに区別されるが、本学では以下のような取り組みが実践されている。

- (1) 学生数 418 名に専任教員数は 31 名(副学長除く)で一人当たりの学生数は 13.5 人、非常勤講師を含めると 5.7 人であるため、きめ細かい指導ができる態勢が整い教育活動が実践されている。
- (2) 平成 19 年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)を受け、キャリアデザイン学科を中心に大学が総力を上げ、ワークショップ型ゼミナールの実施や各種情報発信メディアを活用した情報発信、総合キャリアポートフォリオの作成、社会人基礎力評価ツールの開発等々により、本学学生の社会人基礎力の今後の伸長のための取り組みがされている。

また、現代GPフォーラムを開催し「なぜ仕事をするの?」と題する講演会を実施した。
(平成 20 年 3 月 1 日(土) 名鉄ニューグランドホテル)

- (3) 市民開放講座、生涯学習講座、オープンカレッジなどの行事が恒例となっている。また、平成 17 年度地域総合科学科(総称)として新しく発足したキャリアデザイン学科の研修講座「訪問介護員養成研修」の一環で地元の実習施設(17 施設)で実習体験をするなど、地域社会の福祉要員としての人材育成にも取り組んでいる。このように地域に定着した生涯学習機関としての役割が年々増大している。

- (4) 地域との協働重視の視点から、地元犬山市、小牧市と産学官連携協定を結んだことなどがあずかって、地域の行政機関から委員会の委員等の要請が増えている。こうした取組みは、市民活動の促進や地域社会の充実と発展に寄与している。
- (5) 以上のような外的要因による業務の増大は、日常的なきめ細かい学生指導と研究活動に少なからず影響している。
2. 平成19年度には学内各種委員会の整理統合を図ることにより、時間的な余裕を生み出す努力を行った。また、授業担当のコマ数がアンバランスにならないよう可能な限り配慮している。
3. 評価
 日常的な多種の校務や学外での業務が増える傾向の中で、時間的にはたいへん厳しい状況にあるが、多くの教員の極めて熱心かつ意欲的な研究活動により、平成19年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」が採択され、その実践が今後3年間にわたって行われる。
4. 専任教員平均担当コマ数は下記のとおりである。

過去3か年の平均担当コマ数

区 分	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
キャリアデザイン学科	6.2	5.8	5.7	5.9	5.8	6.0
保 育 科	6.6	6.4	6.3	6.6	6.1	6.3
全 学	6.4	6.1	6.0	6.3	6.0	6.2
全学（前期・後期）平均	6.3		6.2		6.1	

5. 専任教員の研究業績

◆本報告書「専任教員の研究業績表」 参照

6. 教員が参画する学生指導の主な業務

<直接的指導>

- (1) 履修相談・学修指導
- (2) ゼミナール担任（指導教員）
- (3) 学外実習指導（教育実習、保育実習、施設実習、インターンシップ）
- (4) 就職相談
- (5) 学外研修（学外調査、海外研修、海外語学研修）
- (6) 課外活動支援
- (7) 合宿（フレッシュマンセミナー）を含む新入生オリエンテーション
- (8) その他

<間接的指導>

- (1) 教務委員会
- (2) 学生委員会
- (3) 就職委員会
- (4) 入学前教育委員会
- (5) 資格取得支援講座運営委員会

- (6) 教育懇談会運営委員会
- (7) F D委員会
- (8) 情報教育委員会
- (9) 図書委員会
- (10) その他

(6)助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において、適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

本学は基準どおり関係職員を下記のように配置している。したがって教育活動・研究活動等に問題は生じていない。

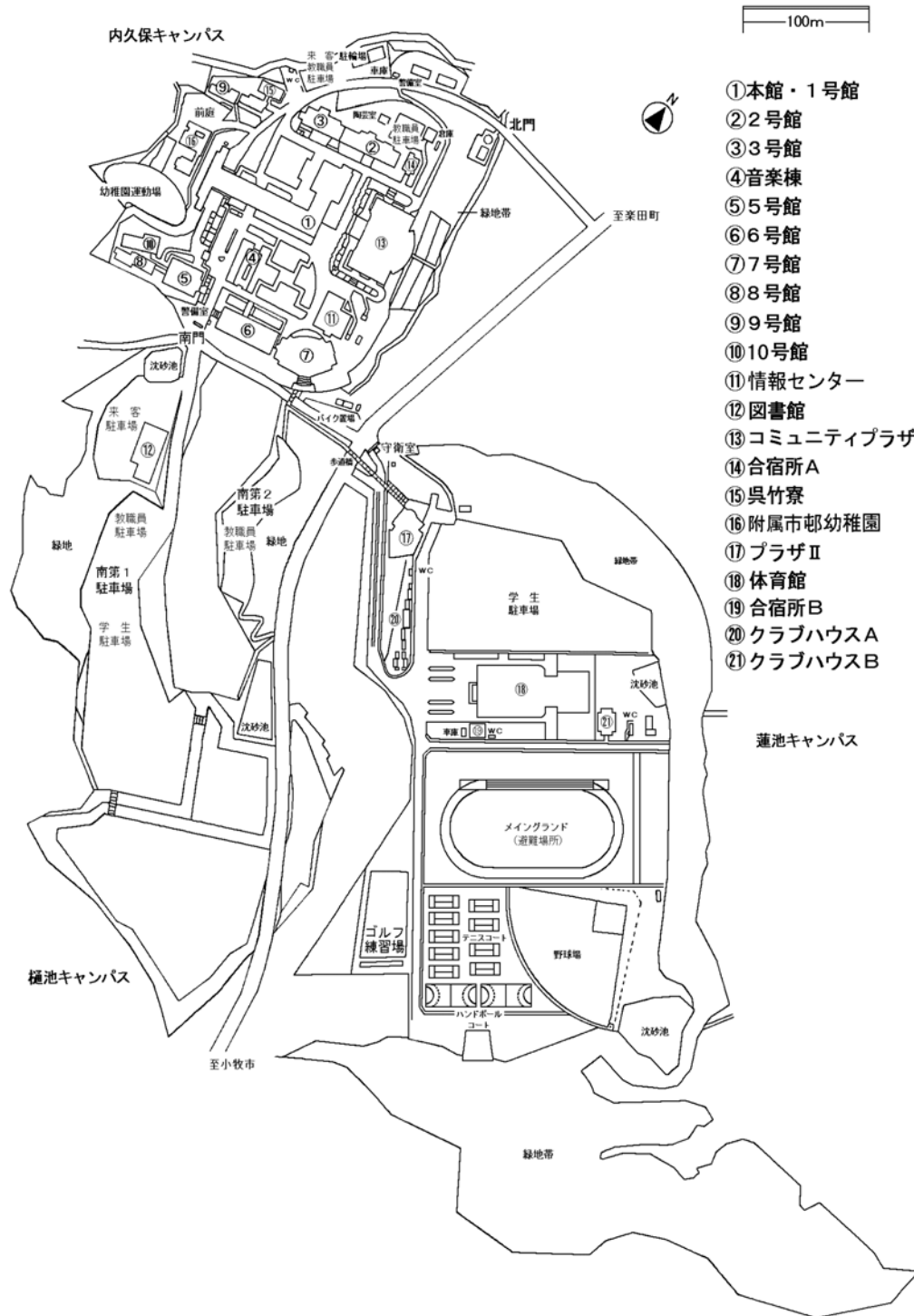
区 分	副 手	備 考
キャリアデザイン学科	3	
保 育 科	3	
合 計	6	

【教育環境について】

(1)校舎・校地一覧表を下の表を例に作成して下さい。

施設 名古屋経済大学 配置図

名古屋経済大学短期大学部



校地、校舎等の面積

在籍学生数 418 人

区分	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する他の学校等の専用 (㎡)	計 (㎡)	設置基準上必要な面積 (㎡)	在籍学生ひとり当たりの面積 (㎡)
	校地等 (大学等 共用)					
校舎敷地	0.00㎡	56,538.54㎡	0.00㎡	56,538.54㎡	41,300.00㎡	77.05613262
運動場用地	0.00㎡	144,500.91㎡	0.00㎡	144,500.91㎡		
小計	0.00㎡	201,039.45㎡	0.00㎡	201,039.45㎡		
その他	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡		
合計	0.00㎡	201,039.45㎡	0.00㎡	201,039.45㎡		
校舎 (大学等 共用)	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する他の学校等の専用 (㎡)	計 (㎡)	設置基準上必要な面積 (㎡) 24,570.00㎡	
	12,352.49㎡	30,089.02㎡	2,180.53㎡	44,622.04㎡		
	(12,352.49㎡)	(30,089.02㎡)	(2,180.53㎡)	(44,622.04㎡)		

(注1) 在籍者数には、共用する名古屋経済大学, 大学院の在籍者数も含む。

(注2) 基準面積算定には、共用する名古屋経済大学, 大学院の面積も含む。

(注3) 校舎には、この他、名駅サテライトキャンパス延面積2,726.94㎡がある。

- ① 校地等面積については、寄宿舍その他大学の附属病院以外の附属施設（大学設置基準第三九条及び短大設置基準第三二条を参照）用地の面積を除いた面積を記載すること（大学設置基準第三六条第5項及び短大設置基準 第二八条第5項参照）。
- ② 校舎面積に算入できる施設としては、研究室・教室（講義室、演習室、実験・実習室等）、図書館、書庫、閲覧室、事務室）、管理関係施設（学長室、会議室、事務室（含記録庫）、応接室、受付、守衛室、使丁室、宿直室、書庫）医務室・学生自習室、学生控室、学生集会所、書庫、食堂、廊下、便所、などがあげられる。
- ③ 校舎の「専用」、「共用」及び「共用する他の学校等の専用」の欄には、学年進行終了時(完成年度)の校舎面積を上段に、開設時の校舎面積を下段に記載すること。
- ④ 校地等及び校舎の「専用」及び「共用」の欄には、「専用」には大学が専用で使用するもの、「共用」には大学が他の学校等と共用する者について記載し、「備考」の欄に共用する学校の名称（共用する学校等が、大学（短期大学）以外の場合には、名称及び収容定員）を記載すること。
- ⑤ 校地等及び校舎の「共用する他の学校等の専用」の欄には、大学が校地等及び校舎を共用する他の学校等が専用で使用する校地等及び校舎の面積を記載すること。

(2)

(2)校舎について、まず設置基準第 31 条の規定による短期大学全体の基準面積(基準面積を算出する計算式を含む)を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途(室名)を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

平成20年度校地・校舎基準面積

【校地】

区分		入学定員	編入定員	収容定員	基準面積	現有面積		備考	
						共用面積	総面積		
名古屋経済大学	大学院	法学研究科	55	-	115	34,300.00	201,376.05	34,300.00	基準面積 = 大学収容定員数 × 10m ²
		会計学研究科	55	-	115				
		人間生活科学研究科	20	-	40				
	学部	経済学部	150	10	620				
		経営学部	200	10	820				
		法学部	250	-	1,000				
		人間生活科学部	180	-	720				
小計		910	20	3,430					
名古屋短期大学	保育科	150	-	300	7,000.00			基準面積 = 短大収容定員数 × 10m ²	
	キャリアデザイン学科	200	-	400					
	小計		350	-					700
合計		1,260	20	4,130	41,300.00	201,376.05	34,300.00		

(注1) 校地面積には、名駅サテライト(仮称)面積(平成20年3月31日取得予定)336.60m²を含む。

【校舎】

区分		入学定員	編入定員	収容定員	基準面積	現有面積				
						専用面積	共用面積	各使用面積	総面積	
名古屋経済大学	大学院	法学研究科	55	-	115	-	12,352.49	34,074.20	46,426.69	48,607.22
		会計学研究科	55	-	115	-				
		人間生活科学研究科	20	-	40	-				
	学部	経済学部	150	10	620	3,801.00				
		経営学部	200	10	820	4,462.00				
		法学部	250	-	1,000	5,619.00				
		人間生活科学部								
	幼児保育学科	100	-	400	2,148.00					
	管理栄養学科	80	-	320	3,140.00					
小計		910	20	3,430	19,170.00	12,352.49				
短期大学部	保育科	150	-	300	2,050.00	2,180.53		36,254.73		
	キャリアデザイン学科	200	-	400	3,350.00					
	小計		350	-	700					5,400.00
合計		1,260	20	4,130	24,570.00	14,533.02	34,074.20		48,607.22	

(注1) 共用面積には、栄サテライトキャンパス1,258.24m²(借用)及び名駅サテライト(仮称)面積(平成20年3月31日取得予定)2,726.94m²を含む。

(注2) キャリアデザイン学科の基準校舎面積は、この学科の関連する三分野(文学関係、経済学関係、家政関係のうち、収容定員400名の基準校舎面積が最大となる家政関係の面積で算定。

(3)教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内 LAN、LL 教室及び学生自習室の整備状況（機種、台数等を含む）について記述して下さい。また、その使用状況（使用頻度等）についても記述して下さい。

本学のパソコン設備は下記の表に示すとおりである。また、無線学内 LAN は学生の集まる 6 号館 2 階学生ホール、1 号館 1 階学生自習室と図書館（一部）で使用できるように整備されている。また、今日の OA 化の要請に応え、本学の重点整備計画の一つとして一層の充実を図る予定である。

館名	階	室名	品名・型番等		台数
1号館	4階	キャリアデザイン支援室	富士通 FMV-CX630(FMVXD0P01)	MITSUBISHI 液晶(RDT192WM)	6
			富士通 CELSIUS J350(CLJ5ED51)	MITSUBISHI 液晶(RDT192WM)	12
2号館	1階	2A1情報処理室	NEC Mate(MY30V/R-1)	MITSUBISHI 液晶(RDT176LM)	25
		2A2情報処理室	NEC Mate(MY30V/R-1)	MITSUBISHI 液晶(RDT176LM)	25
		2A3情報処理室	NEC Mate(MY30V/R-1)	MITSUBISHI 液晶(RDT176LM)	25
		2A4情報処理室	NEC Mate(MY30V/R-1)	MITSUBISHI 液晶(RDT176LM)	25
	2階	2B1LL教室	COMPAQ DESKPRO	EIZO 液晶 FlexScan L350	59
		2B2情報処理室	NEC Mate(MY30V/C-F)	MITSUBISHI 液晶(RDT173LM)	44
		2B3情報処理室	EPSON Endeavor MT7700	EPSON 液晶(LD1752G)	25
		2B4情報処理室	EPSON Endeavor MT7700	EPSON 液晶(LD1752G)	25
	3階	2C1情報処理室	Apple eMac(M8891J/A)		25

情報センター

階	部屋名	品名・型番等	台数	備 考
1階	MOS試験場	富士通 FMV ESPRIMO FMV-D522	10台	
2階	情報処理室	富士通 FMV6866TX6	110台	
		富士通 FMV CX630	4台	MultiLanguage版PC

情報処理室

建 物	教室名	機 種	OS	台数	講義使用状況
2号館	2A1教室	NEC Mate	Windows XP Pro	25	50%
	2A2教室	NEC Mate	Windows XP Pro	25	47%
	2A3教室	NEC Mate	Windows XP Pro	25	45%
	2A4教室	NEC Mate	Windows XP Pro	25	35%
	2B1教室	COMPAQ DESKPRO	Windows 2000	50	23%
		FUJITSU FMV	Windows 2000	8	
		Logitec MicroATX	Windows 2000	1	
	2B2教室	NEC Mate	Windows XP Pro	44	70%
	2B3教室	EPSON Endeavor	Windows XP Pro	25	38%
	2B4教室	EPSON Endeavor	Windows XP Pro	25	35%
2C1教室	Apple Power Mac G4	Mac OS X 10.2	1	10%	
	Apple eMac	Mac OS X 10.2	25		
5号館	5A1教室	EPSON Type-MA	Windows XP Pro	25	45%
	5A2教室	EPSON Type-MA	Windows XP Pro	25	32%
1号館	1B3教室	HP nx9040	Windows XP Pro	10	管理栄養学科
		DELL ノートPC	Windows XP Pro	10	
	1D4教室	FUJITSU FMV	Windows XP Pro	12	キャリアデザイン学科

自由使用

建 物	教室名	機 種	OS	台数	備 考
7号館	自由使用	NEC Mate	Windows XP Pro	12	キャリアセンター
情報センター	自由使用	FUJITSU FMV	Windows 2000	111	
		FUJITSU FMV	Windows XP Pro	4	
図書館	自由使用	EPSON Endeavor	Windows XP Pro	20	

サーバ室

建 物	教室名	機 種	OS	台数	備 考
2号館	情報センター分室	NEC Express5800/120Eh	Windows Server 2003	1	2A1・2教室用
		NEC Express5800/120Eh	Windows Server 2003	1	2A3・4教室用
		FUJITSU PRIMERGY ES210	Windows 2000 Server	1	2B1教室用
		NEC Express5800/110Eg	Windows Server 2003	1	2B2教室用
		NEC Express5800/120Eg	Windows Server 2003	1	
		NEC Express5800/120Eg	Windows Server 2003	1	2B3・4教室用
5号館	5A1サーバ室	MAC Server G4	Mac OS X Server	1	2C1教室用
5号館	5A1サーバ室	NEC Express5800/120Ef	Windows 2000 Server	1	5B1・2教室用
情報センター	サーバ室	FUJITSU PRIMERGY ES210	Windows 2000 Server	1	自由使用

Microsoft Office Specialist 試験会場

建 物	教室名	機 種	OS	台数	備 考
情報センター	試験会場	FUJITSU FMV	Windows XP Pro	10	

(4)授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム(管理の状況、整備計画等を含む)について、その概要を記述して下さい。なお、機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

学内の教育機器は、利用度の高い大講義室・中講義室を中心に、固定式プロジェクタ、スクリーン、ビデオ機器や教材提示器を計画的に整備している。また、授業担当者が必要とする授業専用のノートPC、移動式スクリーンを常備し必要なときにいつでも使用できるよう、可能な限りの授業環境を整えている。

そして、事務局が休業中や年度末に授業用の教育機器・備品の点検・整備を行っている。今後は全学的な視点から教務委員会で授業用教育機器について、全教員の要望を調査し、一層充実した整備計画策定を検討している。

(5)校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

学内の施設・設備等の安全点検を、毎年定期に実施して早期に危険箇所を把握しその手当てに努めている。特にエレベータ(学内7台)については、人命にかかわる事故がおきないように最大限の注意を払っている。また、平成19年度身体にハンディキャップを持った学生が入学することが判明した時点から、該当学生の学内の動線を考えたバリアフリーの工事と洗浄洋式トイレに改修した。

平成16年度、学内環境整備の一環で学生委員会が中心となり、施設設備等充実、学生サービスの向上についてアンケート集約した。その結果、改善したものは下記のとおりである。

- ① 短大学生自習室の空調設備の新設
- ② 心を癒す観葉植物の配置
- ③ 通学路の街灯設置と安全確保のための樹木の伐採等
- ④ 携帯電話の受信電波の改善(アンテナ設置)
- ⑤ 学生ホールにコンビニ店を開設
- ⑥ ATMの設置
- ⑦ 全館禁煙にともない、適切な喫煙場所、分煙、喫煙マナーの指導等
- ⑧ 心の悩みを持つ学生増加にともない、学生相談室の充実(カウンセラーの常勤体制)
- ⑨ バーベキュー施設の新設
- ⑩ 学生のくつろぎ場所の新設
- ⑪ シャトル・スクールバスの増便
- ⑫ 学生食堂のメニューの改善
- ⑬ 女子寮のトイレの改修(和式 → 洗浄洋式)

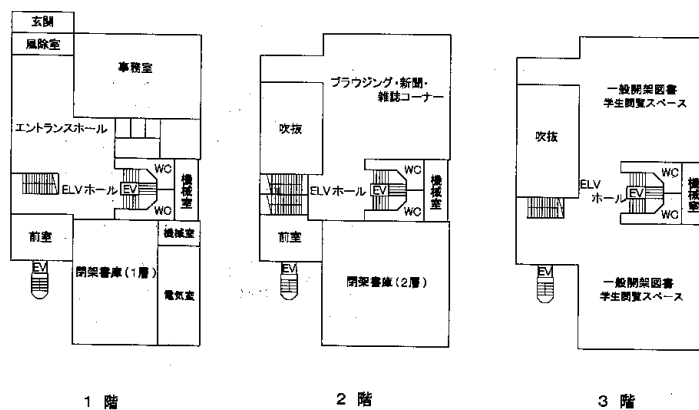
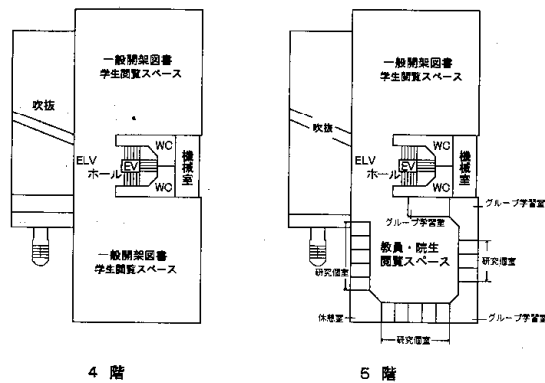
本学は女子の短期大学がスタートであることから、誰もが使用するトイレがきれいであるとの評判である。こうした良き伝統を今後も継続していきたい。

【図書館・学習資源センター等(以下「図書館等」という。)について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお、図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

1. 全体の配置

図書館



(1)総延面積は、5,342 m² (2分室 156 m²を含む) であり、主な用途別面積は以下の通りである。

サービススペース				管理スペース		
閲覧スペース	視聴覚スペース	情報端末スペース	その他	書庫	事務スペース	その他
2,188 m ²	72 m ²	83 m ²	209 m ²	754 m ²	231 m ²	1,805 m ²

(2)館内の配置は、下記の通りである。

- 1階 エントランスホール、受付カウンター、事務室、展示コーナー、マイクロリーダープリンターコーナー、閉架書庫
- 2階 ブラウジングコーナー、AVコーナー、インターネットコーナー、OPACコーナー、サーバー室、閉架書庫
- 3階 開架閲覧室、サービスカウンター、OPACコーナー、情報検索コーナー、コピーコーナー
- 4階 開架閲覧室、OPACコーナー、コピーコーナー
- 5階 開架閲覧室、教職員・大学院学生閲覧室、閲覧個室、グループ閲覧室、OPACコーナー、コピーコーナー

なお、5階の閲覧個室は13室あり、教職員及び大学院学生が適宜利用できるようになっている。また、グループ閲覧室は、12人用が3室あり、ゼミやサークルでの利用のほか、教員の学生に対する研究指導、教員や図書館員によるグループ単位の研究などに広く利用されている。本館の他、10号館（大学院棟）および名古屋・栄サテライトキャンパスに図書分室があり、後者では配架図書および雑誌の利用のほか、専用回線によって学内LAN経由で本館に接続されている。これにより、本館で所蔵するDVD、CD-ROMを含めた図書資料の検索ができ、データベースの利用も可能となっているとともに、電子メールによって必要資料の借り受けが容易にできるようになっている。

(3)視聴覚機器の設備状況は、次のようになっている。

2階<AVコーナー>	
・LD/DVDプレーヤー + VHSプレーヤー	10セット
・オーディオカセット/CDプレーヤー	2台
<情報検索コーナー>	
・CD-ROM 検索用パソコン	2台
<コピーコーナー>	
・コピー機	3台
<その他>	
・マイクロリーダープリンター	1台
・簡易製本機	1台

2. 座席数 (2分室 28席を含む)

総閲覧座席数	内、教員専用座席数
568 席	49 席

3. 年間図書予算 19年度

予算総額	6,449,000 円
うち資料費 (図書、雑誌購入分)	3,920,000 円 (内訳)

4. 購入図書等選定システム

図書等の資料については、教育研究の必要に対応し、体系的に整備している。具体的には、専門教育と教養、総合的判断力と豊かな人間性の涵養教育などとの調和のとれた内容のものとするため、次のような方法により図書等の整備を図っている。

<短期大学部図書委員会による選定>

教授会で選任された各科 (キャリアデザイン学科と保育科) 1名ずつ計 2名の教員と図書館部長で構成する図書委員会において、年度図書予算案の策定と予算配分を行う。図書予算には、教科図書費、雑誌費、図書館図書費の区分があるが、その配分は以下のようになっている。

- ・教科図書費・・・教科図書費の各科への配分は、教科図書費の 2分の 1 を各科に均等に配分し、残りの 2分の 1 を短大専任教員数で等分して教員個人に割り振り、選書を行なっている。
- ・雑誌費・・・4月～9月にかけて各科の次年度の購入中止雑誌、新規購入雑誌の要望を取りまとめ、図書委員会で検討して決定する。近年は、外国雑誌の高騰化を一因として、データベースへの切替えを積極的に行なっている。
- ・図書館図書費・・・図書館が、短期大学部、学部および大学院に共通する資料である年鑑、白書、統計資料、法令集などを継続購入している。そのほか、書誌、目録、辞典、事典などの参考図書、学生用の教養書、東海 4 県を中心とする地域関係資料、教職関係資料、図書館学関係資料などを、教職員・学生の希望や所蔵構成を配慮して選書・収集に努めている。特に、学生のニーズにこたえるため申し込み用紙をサービスカウンターに備え、これを提出できるようにしている。

<個人研究費による選定>

教員の個人研究費によって、個々の研究図書が収集されている。この研究図書は各研究室に保管の上、研究用に利用されているが、最終的 (原則として教員の退職時) には一部図書を除き図書館へ返却し、図書館で所蔵することになっている。

5. 図書等廃棄システム

名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部図書館規程第 10 条および図書館閲覧内規第 7 条・図書館学外者閲覧内規第 8 条に基づき、紛失図書・毀損図書への弁済措置をとっているなか、必要に応じ内容的に資料価値が無くなり不要と認められた図書も含めて、除籍・払出の手続きをとっている。

- ◆名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部図書館規程 参照
- ◆図書館閲覧内規 参照

◆図書館学外者閲覧内規 参照

6. 司書数（大学と共用）

平成 19 年度は、専任職員 5 名（うち司書 4 名、司書補 1 名）および臨時職員 4 名（うち司書 1 名）で図書館業務に当たっている。

7. 情報化の進捗状況

発注・受入、整備、閲覧、レファレンス等各業務の効率化と利用者サービスの向上をめざして、平成 9 年度より、館内の機械化を推進し、平成 11 度に図書館資料情報管理システムである CALIS（Computer Assisted Library Information System）の導入を完了した。平成 15 年度に CALIS のリプレースを行い、当館としても国立情報学研究所の多言語対応変換へ合わせた。これによって、書誌・蔵書登録処理、利用者登録処理、検索、発注・受入・整理処理、貸出・返却・予約・督促処理、統計処理などが機械化された。平成 20 年 9 月にリプレースを迎えるにあたり、より利用度の高い新システムの導入を決めている。また、平成 13 年度には図書館ウェブサイトを開示した。

◆本学図書館ウェブサイト 参照

8. 館内システムの整備（事務システム・利用サービス機器・備品）

<利用サービス面>

・ OPAC 用サーバー（学内用／学外用）	2 台
・ OPAC 端末管理用サーバー	2 台
・ OPAC 専用端末（パソコン）	12 台
・ OPAC 用端末（分室設置）	4 台
・ 学生自由使用パソコン（インターネットコーナー）	20 台
・ 学生用プリンタ管理パソコン	5 台
・ CD-ROM サーバー	1 台

<事務システム面>

・ 館内システム用サーバー	1 台
・ 業務用サーバー	2 台
・ 業務用パソコン	12 台
・ カウンター業務用パソコン	3 台
・ 入館システム及び管理用パソコン	1 セット
・ 退館システム	1 セット

<目録データベース収録件数>

和図書	洋図書	和雑誌	洋雑誌	AV 資料
239,326	57,298	4,165	919	3,796

注) 以上は、いずれも名古屋経済大学と共用のデータである

(2) 図書館に備えられている蔵書数（和書、洋書、学術雑誌数、AV 資料数等）を下表を例に作成して下さい。

図書館蔵書数一覧 (平成 20 年 3 月 31 日現在)

	図書 (冊数)			雑誌 (タイトル)			AV 資料(タイトル)
	和	洋	計	和	洋	計	計
短期大学部	129,451	23,880	153,331	444	200	644	2,714
大 学	137,464	46,467	183,931	321	311	632	1,536
合 計	266,915	70,347	337,262	765	511	1,276	4,250

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者(図書館長等)が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

1. 学生が利用できる授業に関連する参考図書数は 79,860 冊、その他学生用の一般図書数は 144,924 冊である。その他、AV 資料、雑誌も数多く備えており、資料の種類・点数・内容ともに充実している。発行年の新しい資料および、良く利用される資料は開架書架を中心に配架されている。また、OPAC 検索により閉架書庫の資料検索も可能であるほか、他大学の所蔵も確認できるようになっている。

2. 学生(短期大学部、学部、大学院生)の図書館等の利用状況(平成 19 年度)

開館日数は 280 日で、1 日の平均開館時間は 9.4 時間である。開館時間は平日 9 時 10 分～20 時、土曜日 9 時 10 分～16 時 30 分、長期休暇中 9 時 10 分～17 時となっており、休館日は日曜日、国民の祝日、毎月末日、8/13～8/15、年末・年始である。学生の入館者は 37,741 名で 1 日平均 135 名となり、18(14.9 回)年度と 19(15.2 回)年度を比較すると、1 人当たりの年間入館回数は微増している。貸出冊数は 13,596 冊で 1 日平均 49 冊、1 人当たり 5.5 冊で、過去 3 年間の平均(5.2 冊)を上回り、学生数がほぼ横並びという点から見れば、学生の図書館利用状況は大幅に向上している。学生の視聴覚資料の館内利用者数は 1,190 人、インターネット・データベース(平成 19 年度は 10 種)もよく利用されている。学生用パソコンの利用は 8,637 件で 3 年連続して上昇が続いている。これは、17 年度に 20 台全ての新機種入れ替えとプリンタを増設したことが大きく寄与している。ウェブサイト閲覧、Eメール、レポート作成、履修登録など多様に活発に利用されている。学生のレファレンス・サービスの利用件数は 1,495 件で、項目別内訳は文献所在調査が 6 割、事項調査 1 割、利用指導 2 割、その他 1 割である。事項調査の割合が減少したのは、インターネットの普及も大きな要因と思われる。

3. 学生の図書館利用を活発化するために以下のことを実施している。

(1) 新入学生を対象に、図書館の役割を周知させ積極的な利用を促すため、学科毎に図書館ガイダンスを実施している。ガイダンスでは図書委員会委員長による大学生活を送るにあたっての図書館がもつ意義や位置づけについての講話と、図書館職員による館内ガイドツアーを行なっている。なお、ガイダンスは入学時だけでなく申し出があれば随時行ない、また、図書館報やウェブサイトなどを通じても利用促進を図っている

(2)図書館は情報検索の窓口でもある。学生は求める文献名があらかじめわからなくても、研究テーマを図書館員に示し相談することによって、テーマに関連する文献、資料の検索をすることができる。該当する資料が本学図書館にない場合には、他大学の図書館あるいは公立の図書館などから資料の借り出しやコピーの送付依頼が可能である。学生には、社会の情報の海の中から、自ら求める情報を探し出す窓口として図書館を利用するよう指導している。近年は手作業による検索から電子情報を利用しての検索に変わっているため、機器使用方法の指導も含めたガイダンスも行っている。

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

1. 図書館と利用者との懸け橋として、図書館報「図書館だより」を年2回発行して、在学生、教職員への配付を行なうとともに、学外関係先へも送付している。この図書館報は、図書館から利用者への情報発信手段として昭和45年に発行を開始してから今日まで四半世紀を経過しており、内容も年々充実している。平成17年からは図書館ウェブサイト(PDFファイル)上でも全文を公開している。

大学の「学内報」(年2回発行)にも、図書館から学生への購入図書、利用案内などの情報を毎回掲載している。

図書館ウェブサイトのコンテンツとしては、図書館案内、資料検索、CD-ROM検索、データベース接続、図書館開館日カレンダーなどを掲載している。

2. 地域住民(犬山市・大口町・小牧市等)など学外利用者(高校在学学生または16歳以上の市民)への一般開放が、犬山市との交流協定覚書が取り交わされた平成13年に正式に始まり、平成19年現在の登録者数は256名を数え、年間平均貸出冊数は約600冊である。また、図書館の1階エントランスホールを「展示ブース」としても開放しており、市民等による作品展示発表の場として図書館施設を有効に利用している。平成19年度には犬山市、小牧市とそれぞれに産・学・官の三者「連携交流協定」が締結され「地域貢献」がますます大きな使命となっている。今後、図書館としては、学外への広報活動はもちろんのこと、学内の関係機関と密接に強固な協力体制を整えて生涯学習サービスの提供を推進していく所存である。さらに、近隣の大学および公共図書館など個性ある図書館とのネットワークを構築し、文化活動の発信地として「地域の情報の拠点」という目標に向けて取り組んでいきたいと考えている。

【特記事項について】

(1) この《Ⅲ教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

1. 外国人教員の採用

英語科の設置(昭和63年)に伴い外国人教員を採用し、今日に至っている。現在専任の外国人教員が1名いる。活きた外国語教育に不可欠である。

2. 授業の公開

平成19年に両学科で授業の公開を行った。それぞれ後期に1回、学科同僚に公開した。これは大学運営戦略会議の決定に基づくものである。

◆平成17年11月「学生数4000人体制に向けての改革案」 参照

3. 準備室機能

副手が常駐する準備室は教育活動に不可欠である。教材の準備、教育機器の維持管理、教職員相互のあるいは教職員と学生とのコミュニケーションを図る役割など、短期大学部に不可欠なインフラである。とくに保育科では保育実習、教育実習の機会が多く、これを円滑に進める上で重要な役割を担っている。

4. 絵本ライブラリ

平成17年度より学内に設置された絵本ライブラリには、和洋書あわせて現在約1200冊の絵本と約120部の紙芝居が、開架形式で学生や地域住民に公開、利用されている。

5. キャリアデザイン支援室

キャリアデザイン学科には準備室のほかにキャリアデザイン支援室が設けられている。ここにはキャリア支援に役立つ書籍、雑誌、新聞そして視聴覚教材が備えられている。また、パソコンが18台とビデオ再生装置が6台設置されており、キャリア形成のための情報収集、Webを活用した就職適正診断を行うことができる。さらに、課外講座や集会、イベント準備に使えるスペースが用意されている。

6. 放送実習室

ラジオのミニFM放送を行える設備が整えられている。放送番組の収録も行っている。キャリアデザイン学科の授業科目とゼミナールのワークショップ活動、放送クラブの活動で使用されている。

(2) 特別の事由や事情があり、この《皿教育の実施体制》の評価項目や評価の観点があることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。
--

とくになし。